

第二十八回宮柁二記念館全国短歌大会入選作発表

《一般部門》

最優秀賞

白菊の綿にくるまれひと眠り不老長寿になってしまった

渡辺 晃子(新潟)

選者賞(大下一真 選)

そのむかし海だったという記憶あり草はら時おりさざ波寄せ
る 牧 恵子(埼玉)

選者賞(水上比呂美 選)

山古志の青葉若葉の照る五月牛の角突き初場所が成る

山崎とし子(新潟)

魚沼市長賞

ミサイルのようなボンベを積みて来ぬガス検針の雨合羽着て

強瀬 忠昭(埼玉)

新潟日報社賞

戦争を廊下の奥にあらずして廊下の前に立たすプーチン

庭野 治男(東京)

宮柁二記念館長賞

浴槽の掃除をしつつ思ひをり死はごぼごぼと来るかも知れぬ

代田しろたいま水たいらかに満たされて水無月十日の夕月ふたつ
中村 重義(福岡)

補助輪を外しし銀の自転車がゆらゆらとゆく日ざかりのなか
平尾三枝子(岡山)

コロナ禍に自粛の祭り再開を言ひ出す者無き過疎の村なり
加藤 久子(神奈川)

脱皮した蟬がここにもドアノブに兎の手届きて朝を押しゆく
渡邊 昭夫(埼玉)

露天湯の床ゆかに黒蝶ふいと来てべつたり伏して寝てしまったの
畠山みな子(宮城)

水田と越後三山に挟まるる緑の帯にわれらは暮らす
大塚とみこ(群馬)

遠き日の三角野球のヒーローが三本足で図書館に来る
磯部 剛(新潟)

星野 武二(新潟)

秀逸(一)

大雪に凍てし白菜幾畝をトラクターが鋤き鳥ら群がる

尾原 永子(富山)

柄じゃない 遺影まに空の背景をあてがわれたる飲兵衛の友

中村 英俊(北海道)

しゃふしゃふとしゃふしゃふと母さんは林檎食みます
持つてきてよかった
大西 令子(兵庫)

この墓に次に入るは我だろう黒ずむ石をブラシで磨く

小畑 定弘(徳島)

わが髪を撫でて去りにし君の名を逝去欄にみる初雪の朝

滝沢千鶴子(長野)

秀逸(二)

落鮎の寄りゐるところ哀なしくて川の底まで風の音する

北村 純一(神奈川)

粃がらを燃やすけむりの雲となり越後平野のいまし暮れゆく

眞庭 義夫(群馬)

客用の羽毛布団を押さえ込み小さく小さく仕舞う「正月」

加藤三知平(福岡)

重力の形にひづみ造成地の水たまりみな水平に照る

井田 善啓(群馬)

挿し苗のピンに浮き雲留めつつ峡の水田は目を見張る青

藤井 重行(山口)

ヨチヨチと歩くをみづから嘲ひつつ卒寿は卒寿よと悔ひなく
嘲ふ

若林 久子(兵庫)

「七万羽鳥インフルで殺処分」里の小さな記事の大事件

上田 康彦(千葉)

戦知らぬ歌手グループが胸痛む軍歌をうたふ折目正しく

武藤 幸子(栃木)

岳樺のピンクの樹皮に触れながら君と越えたり焼山峠

磯部 剛(新潟)

ちちのみの父が語りき一度だけ酔いかたまけて戦争のはなし

須賀登喜雄(千葉)

人生で二度目の保護者手を引いて施設のバスに父を誘導す

中村 英俊(北海道)

拾ひ来て埋めしどんぐり軒を越え子は三人子の父となりたり

渋谷 和子(新潟)

三本鋏力で引けばごろごろと土の中から男爵あらわる

渡邊 正夫(千葉)

わが生に掴み得しもの何なりや曲れる指をさする雪の夜

関川 洋子(新潟)

バス停の時刻表示の空白がどんだん増えてゆく町外れ

後藤 進(岐阜)

四手網もちて二月の魚野川かじか捕るらし男かがめり

五十嵐トシエ(新潟)

春はただ寒緩むことあとはただ別離の匂ひ沈丁花咲く

石塚 明夫(東京)

早送り映画を観てる心地する若さは少し窮屈だった

濱岡 学(京都)

青稲の波立つ中を過ぎて行く普通亀山二両編成

田中亚紀子(三重)

ひらひらと掴まり捜して歩く母まだ杖はいらぬと言ひ通す

木村マチ子(愛知)

生乾きの大鬼瓦に何彫るやをみなは白き軍手を填めて

若月 昭宏(新潟)

携帯が見つかりましたとライン来てわれによく似た娘と思う

磯部 剛(新潟)

をさなごはシャワーの虹に触れられず少しこの世のありやうを知る
小金森まき(千葉)

新しきアスファルト道を駆けてゆく花びらのやうに孫入学す

中村 仁彦(福岡)

人の列臨時検査のプレハブにシールド付けし看護師走る

松井 孝憲(愛知)

《ジュニア部門》

小学生の部

最優秀賞

なつのひにすいてたこうえんうれしくておしりがもえたなが
いすべりだい
安藤 丈(新潟)

選者賞(大下一真 選)

珠算塾パチパチパチパカチャカチャカそろばん達の小鳥の会
話
須田 朋美(新潟)

選者賞(水上比呂美 選)

空でなく海に映った花火見るじいじも空で見るといいな

尾沢 成海(新潟)

魚沼市長賞

夏休み家族でいったでかいプールにいちやんいいな足がつく
んだ
田中 りお(新潟)

新潟日報社賞

飛びこんだ、打球は速い、サードゴロ、グラブにかすり、は

じけて飛んだ
山田 祥楓(新潟)

宮柁二記念館長賞

妹の風にゆれてるワンピースこの夏だけのひまわり畑

星 彩羽(新潟)

目が合ってトカゲが走るぼくは追う石のすき間に入っちゃず
るい
福崎 理(新潟)

参観日の国語の時間に弟が走り回った教室の中

梅本 天音(山口)

ランドセル思い出つめた六年のつめこみすぎてあふれでそ
うだ
須佐 空翔(新潟)

演奏が終わった後のこの写真校長先生横を向いてた

眞島 花恵(新潟)

いもうとがかぞくのかおをかきましたみんなおんなじにこ
こえがお
松田あやせ(新潟)

ドアノブに一匹カエルついてとびらの前で五分が過ぎる

大桃 夏輝(新潟)

秀逸

本たちはみんなで仲よくあそんでる本だんで仲良くおしやべ
りしてる
大羽賀香音(新潟)

大縄で二人回して五人飛ぶ三百達成一致団結だ

渡邊 大翔(新潟)

あと少しわたしの夏はあと少し宿題のこりあと三ページ

和田 蒼獅(新潟)

夏休み宿題やってて思い出す二学期いない産休の先生

吉田 宗真(新潟)

花やしきジェットコースターの待ち時間人の悲鳴を姉と聞いてた

眞島 花恵(新潟)

夏の昼テニスコートで赤トンボが審判やつたよネットに止まつて

益田 昂(東京)

フェニックス三年ぶりに夜空舞う祈りをこめてウクライナ色

佐藤 美愛(新潟)

アイロンがしゅうしゅう音をたながらわたしのハンカチのばされてゆく

南雲日菜子(新潟)

水ポトリまどのガラスに夏の雨山のおくから光が差した

品田 友佳(新潟)

行き先を聞けばどのアリの答えなどわからないようなアリの行列

横道 玄(山口)

皿の上にオムライスがありぼくは今スプーン片手に真ん中通過

中村 莉緒(山口)

始まりはいつも真つ白な紙の上だんだん自信持てる絵になる

岩根萌萌美(山口)

葉がちる日、葉のないえだ、つもった葉、冬のはじまり、秋のおわりだ。

佐野 由晃(新潟)

尾瀬沼の自然は大事きずつけないだけワタスゲさわつてみたい

松縄 命子(新潟)

真つ黒なビー玉みたいな目を閉じてすやすやねむるぼくの愛犬

星野 優弦(新潟)

風がきて風鈴がうたう夏のうたうたで知らせる風のおたより

宮下菜々花(新潟)

カジカとりすばやい動き後ろからねらいさだめてぼくのあみわざ

西方 せい(新潟)

このなつにおはやしやつてがんばろうぼくはふえだぞついでいけるか

佐藤 楓翔(新潟)

にしきごいちぢみおりものへぎそばとうしのつのおきおぢやのたから

阿部 翠人(新潟)

夏休みトロンボーンを友として朝から練習三時間超え

脇田 大地(新潟)

ゆきがふるけいとこのぼうしおとうとがゆきたるまにかぶせていたよ

小澤ゆうせい(新潟)

すごいんだなんでも直すえばたさんカツコイんだみんなのヒーロー

山本 潤(新潟)

角まがりえがおの祖母が見えてくる一人できたよあそびにきたよ

日暮 華子(東京)

千葉の海クラゲの死骸たくさんださわつてみると意外にかた

梨和 柁雄(東京)

い ちよつと変後ろに人が立っているいつもとちがうぼくの心ぞう

佐藤 生織(新潟)

大会でシュートを放ち吸いこまれボールと共に自分もはねる

高橋 結愛(新潟)

雪どけのほりつこのぞいで春見つけ二つ三つとふうきんとの花

佐藤あかり(新潟)

中学生の部

最優秀賞

夏季休暇読書大会待ち遠し筆走らせてさあ「白雲万里」

渡邊 優太(新潟)

選者賞（大下一真 選）

ゴールしてしばらくたってアナウンス最初に呼ばれた自分の名前
鈴木 太翔（宮城）

選者賞（水上比呂美 選）

蟬の声近くに聞こえ振り返る僕の背中は樹木じゃないよ

川村 奏太（神奈川県）

魚沼市長賞

「久しぶり」自粛期間後クラブにて口見えないが目で笑い合
う
猪貝祥太郎（新潟）

新潟日報社賞

学校の帰りにのぞくポストから躍る筆跡友の字を待つ

大立目芽依（長崎）

宮柁二記念館長賞

ぬばたまの夜に絵を描く星座たち離れていても手と手つない
で
吉見 香音（神奈川県）

選挙カー聞こえる声を聞き流す3年後には聞き流せない

坂大 豪（新潟）

寝室に響く大きな虫の声小さな羽をこする鈴虫

野水 蒼生（新潟）

せみの声にぎやかな日が誕生日14歳の私の始まり

平松 実華（新潟）

爪切を作る工場見学する多くの人の手を得て輝く

山田 桃歌（新潟）

早起きで気分も運も良くなってあるものなんだ三文の得

長谷川 蓮（新潟）

勉強中外を見ていて思うことなんて自由な大きな雲よ

長谷川 蓮（新潟）

秀逸

あかい痕からだにできたぶつくりと犯人追ってかしわ手打つ
た
伊藤奈津子（神奈川県）

いつの間に押ししてと言わない三輪車離れてく君の小さな背中

竹内 美結（石川）

「神様は登れない壁作らない」諦めるなと先生の言葉

加藤 睦也（新潟）

黒い空暖かい風低い鳥きつともうすぐどしや降りの雨

佐藤 綾菜（神奈川県）

夏休み小さないとこのおつきあいむしかこの中まんいんおん
れい

古川 泰成（新潟）

飼っているインコの小屋をのぞいたら昨日はなかつた卵が一
つ

野崎 蓮人（神奈川県）

なぜだろうそんなのどうでもよかったのに電車の窓で直す前
髪

福井 直治（神奈川県）

明くる日もまた明くる日も君というチョコフォンデュのイチ
ゴでいたい

佐藤 煌（新潟）

せみの子がよろいをぬいで顔出せば息のむ美しさ白い羽

児玉佳太郎（神奈川県）

ペランダの洗濯物のすき間からきゆうくつそうなくもりの日
の空

大河原桃花（福島）

真夏日の部活が終わり帰路につく強い日差しに足をつかまれ

若井 尊（新潟）

マジすげえ七回裏満塁ホームラン東北の軌跡甲子園の夢

平澤 隼(新 濁)
「ありがとう今伝えたいこの気持ち夜おそい父待つてる私

鈴木 結衣(新 濁)
リバウンド激しいぶつかり汗弾くとつた瞬間私のボール

本田 夕季(新 濁)
舞台袖本番前の緊張は引退したらむしろ恋しい

佐藤 栞里(新 濁)
別れ告げ関わらないと決めたのについて、ながめちゃう 君と

安井里紅来(新 濁)
のLINE
君のクセだねグーチョキパーでチョキを出す私はあえてパー

松本 琉花(新 濁)
を出す
「あんたはね素直だからね」なにげなくこもんにいわれ実は

小田島朱里(新 濁)
うれしい

高校生の部
最優秀賞

「背高いね!」「何cm^{センチ}あるの?」聞き飽きた容れ物だけの僕
じゃないから
斉藤 壱(新 濁)

選者賞(大下一真 選)
たくさんのおいしい食はプラスチック海鳥の胃は満たされて

死す
坂爪 結子(東京)

選者賞(水上比呂美 選)
花散らふ枕詞を忘れない君の名前に秋があるから

引木 花(新 濁)
魚沼市長賞

この夏がもう最後だと汗臭いスパイク・ミット磨く玄閑

坂口幸太郎(新 濁)
新潟日報社賞

マウンドの照明の影ピッチャーの四つに分身マウンドにある
森田 蒼生(新 濁)

宮柁二記念館長賞
そうだねと相手が気に入る仮面つけ私は皆の着せ替え人形

増田 沙織(神奈川)
赤よりも大きい黒を追いかけて袂も気にせずくう夏祭り

鈴木水萌紗(神奈川)
フェルメール牛乳注ぐ女のように朝の牛乳注ぐ母さん

吉田あゆみ(新 濁)
「大丈夫」後輩の失敗励ましてそう言いながら自分も励ます

風間 蘭(新 濁)
暗転の中で息吐きさあいくぞ四つ打ち聞いて踏み出すステッ

角家 乃愛(新 濁)
プ
終点の無人駅にてたたいまど草の匂いに帰省を告げる

草川 真柚(神奈川)
赤とんぼびたりと止まる俺の指お前も俺の良さが分かるか

五十嵐剣聖(新 濁)
ポケットの小銭鳴らしてどこまでも行ける気がした十六の夏

菊池 雄太(神奈川)
故障して羽回らない扇風機なかなか解けない証明問題

柴山 紀花(茨城)
秀逸

思うよりズッシリ重い弓道着ぬいだり着たり夏合宿前

仲谷夏菜子(神奈川)

夏の風甲子園の砂吹きあがる球児たちの汗茶色にひかる

関口 維吹(新潟)

コロナ禍の僕らが過ごす青春はいつも、マスクで半分足りない
山上さくら(神奈川)

ほこりっぽい祖父の貯金箱に入れてみた彼の知らない令和の
硬貨 大平 珠里(新潟)

前歩く母と並んだ妹の踵はみ出たビーチサンダル

歌川 仁奈(神奈川)

じいじと会ってなかった三カ月白くなってたじいじの睫毛

山元 環奈(神奈川)

ゆるせない頭痛、発熱倦怠感10日返せよ新型コロナ

伊藤 倅友(神奈川)

青い空マットから見た落ちた棒「あー！もうちよっと！」と
言う友の声 浅野 すす(新潟)

背の低さ自信のジャンプでカバーするネットの上から見える

風景 吉田 迅(新潟)

スイカ割り飛び交う声の中一つあの子の声が耳こたまする

星 大地(新潟)

つやつやと光るむらさき早朝に母と二人でもぐ深雪ナス

秋元 美愛(新潟)

家に着き車の中から祖父と見る私を待つてる祖母の姿を

榎本 樹里(新潟)

凜々しい目キリツとまゆげ高い鼻完全無欠鏡の自分

田西 隼人(新潟)

友達とギター爪弾く放課後の夏風と音色交わる教室

布川 康太(新潟)

一日中大きな波に揺られると波のここちが体にのこる

石本 美結(神奈川)

制服は長そでまくるのかわいいね君が言うから暑さを我慢

佐藤わかかな(神奈川)

八月の花火を二人で見ませんかこれも駄目だと打った文字消
す 菅谷 昊汰(神奈川)

クレープをまるめた端にはみ出した生クリームは私の青春

生野帆乃花(新潟)

文化祭準備に残るふりをして君との話題探しています

小林菜々花(新潟)

手を止めて五十七センチ先の網戸眺める細いイモリの狩りの瞬
間 石川 桜子(神奈川)

平行線宙に届きし弓弭の音きしむ漆にいま風立ちぬ

長嶺 凜佳(神奈川)

春の森だれかが私を見つけ出し：目覚めなければ良かったの
にな 矢作 藍海(神奈川)

送信を押すたび胸の奥にある乾いた砂が海にこぼれる

小田麻祐子(茨城)

